

GCI Global View

2010年6月21日

【目次】

- | | |
|------------------|-----|
| ● 「強い経済」とワールドカップ | P.1 |
| ● Global Markets | |
| 1.オーバービュー | P.3 |

【連絡先】

株式会社 GCI アセット・マネジメント

○住所：〒101 - 0065 東京都千代田区西神田 3 - 8 - 1

○電話番号： 03 - 3556 - 5540(代表)

○電子メール： administration@gci.jp

金融商品取引業者

関東財務局長(金商) 第 436 号

日本証券投資顧問業協会 加入

当資料は、株式会社 GCI アセット・マネジメントが情報提供を目的として作成したもので、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。当資料は、当社が信頼できると判断した情報データに基づき作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、当社が保証するものではありません。当資料における見解は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

巻頭レポート

「強い経済」とワールドカップ

ソブリンリスクへの警戒感が広がり、欧州では各国が緊縮財政により財政健全化に舵を切りはじめました。日本では、菅首相が「強い経済、強い財政、強い社会保障」を掲げ、少なくとも強い経済なくしては財政も社会保障も成り立たないとして、鳩山政権の「無駄の削減+ばらまき型」とは決別し成長戦略に軸足を移しました。その中でも、強い経済を実現するための需要創出について、「グリーン・イノベーション」「ライフ・イノベーション」「アジア経済」「観光・地域」を成長分野に掲げ、これらを支える基盤として「科学・技術」と「雇用・人材」に関する戦略を実施することを表明しました。そしてこれらを公共事業中心の「第一の道」でもなく、生産性重視の供給サイド強化の「第二の道」でもない「第三の道」により実現するとしており、それは「課題の解決を新たな需要や雇用の拡大につなげる」道であることを表明しました。

日銀も巷の安易な「インフレターゲット導入」や「国債買い切り増額」に対する要求の強まりを退け、新政権の第三の道に呼応するように、デフレ脱却に向け成長分野に対する新たな資金供給の枠組みの導入を決定しました。その実行性についての疑問や、中央銀行の役割を逸脱するものだとの批判もありますが、特に国債買い切り増額に対する圧力をかわしながら、政府との協調を演出する効果はあったとみられます。

日本の対 GDP 比でみた公的累積債務は拡大の一途をたどっており、ギリシャや南欧の次は日本かといった議論もありますが、少なくとも市場の金利水準が発するシグナルは、国債に対する需要が足元では根強いことを端的に現しています。ただし、それがいつまでも未来永劫続くものではなく、残された貴重な時間の中で、豊富な金融資産を有効活用しながら、新陳代謝を促す仕組みと特に若年層の雇用を確保する仕組みを導入することが、労働人口が減少する中での中長期的な「強さ」につながっていくものと考えます。そういう意味では「第一の道」「第二の道」の全否定ではなく、これらも総動員して取り組んでいくべきものと感じております。

おりしも南アフリカで開催されているワールドカップでは、スペイン、ドイツ、イタリアなどユーロ圏各国が苦戦する中、それまでの戦術を大きく見直した日本代表が、内容はともかく事前の悲観的な予想を覆し、24日深夜のデンマーク戦が予選リーグ突破をかけた大一番となるまで、健闘を続けてきました。大会前の強化試合では不甲斐無い戦績しか残せず、韓国史上最強との呼び声の高いアジアのライバルである韓国代表にも完膚なきまでに打ちのめされ完敗し、日本代表に対して、さらには日本サッカー全体に対しても悲観論が世間を覆い尽くしてしまい本当に今年がワールドカップイヤーなのかと疑ってしまうような盛り下がりを見せました。

それでも少なくともこの20年を振り返ると、Jリーグの創設、98年のワールドカップ初出場以来の4大会連続出場、ワールドカップの自国開催、女子サッカーの発展、フットサルの普及など日本のサッカーは飛躍的な進歩をとげましたが、その中でも、その最大のものは子供たちに大きな意識の変化をもたらしたことはないかと、個人的には感じています。

最近の若者は海外に行きたがらなくなったとか、米国の一流大学の MBA コースに留学する日本人の数が減少し、その一方で中国や韓国の留学生が台頭しているといった指摘がありますが、少なくともサッカーに関しては別世界です。日々サッカーに打ち込む少年・少女たちが、かつてはワールドカップというのはテレビで観るものでしかなかったものが、今や大人になったら日本代表となってワールドカップに出場することを目指し、海外のトップリーグへの挑戦をも夢見ながら、日々チーム内のレギュラー争いに奮闘する姿からは、内にこもり、無理をせず、仲間内だけで楽しく過ごすことを志向するといった、マスコミに流布される典型的な日本の若者像とは全く違う姿がそこにはあります。

3 2年前のアルゼンチン大会の当時、丁度息子と同じ14歳でしたが、地球の裏側で開催されているワールドカップを眠い眼をこすりながらも感動と興奮をもってテレビの前で釘付けとなっていたことを思い出します。そのころのサッカー少年が目指すものといえば、せいぜい高校生になってお正月の高校選手権に出場し、準決勝・決勝に進出して国立競技場の舞台に立つことでした。それはそれで普通の公立中学のいちサッカー部員にとっては大きな目標でありましたが、地球の裏側で行われているワールドカップを自らと重ね合わせてイメージすることは、まったくもって想像もつかないものでしたが、息子には（その実現可能性が限りなくゼロであることは別として）、違和感はなくイメージできてしまうようです。

プロのスポーツ選手になることだけでも極めて狭き門であり、さらにその中で一流となつて、経済的にも成功をおさめるケースはさらにほんの一握りにでしかなく、経済的な成功にだけ着目すればプロのサッカー選手を目指すなどということはほとんどあり得ないという結論となってしまふようですが、それでも日本の少年・少女たちは希望と夢を抱き、日々ボールを追いつけています。南米やアフリカのように、プロのサッカー選手になることが経済的にみても飛躍的なチャンスを掴む可能性を秘めている状況で、多くの子供たちがプロを目指すというのと、そのおかれている状況は大きく異なりますが、経済的な動機付け以外にも人を動かすものがあるということの一つの事例でもあります。

日本では社会が成熟し、既に多くの物を手に入れ、若者もハングリーさに欠け、このままでは「明日は今日よりも良くなる」と信じている中国の多数の若者達に仕事を奪われるのは当然だとの指摘もありますが、「より信頼されるものをつくる」「より良いサービスを提供する」ということについては、まだまだやるべきことがいくらかでも残されていますし、日本人の強みもそこにあります。

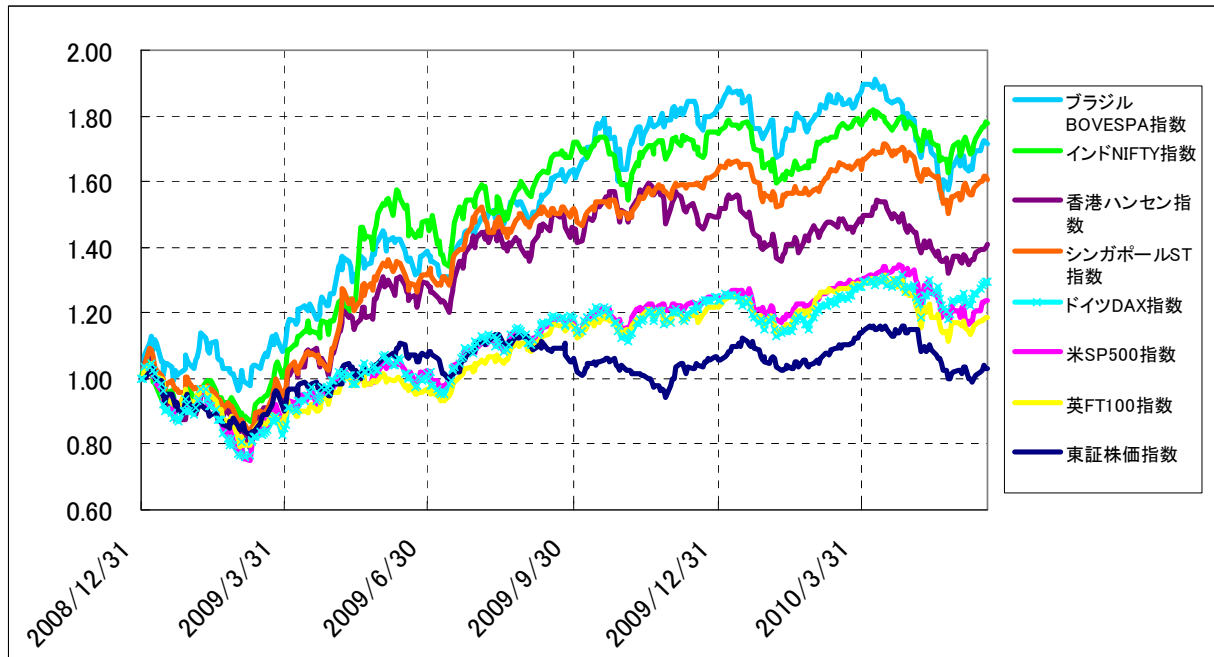
24日の結果もさることながら、日本のサッカーが今後も進化し続けることを願いつつ、若い人たちがチャレンジする機会を得て、競争と淘汰の中でも常に一步上を目指していける、そんな社会を目指して参りたいと心から思いますし、それに向けてのできる限りの取り組みを行って参りたいと思います。(末永)

Global Markets (6月14日～6月18日)

1. オーバービュー

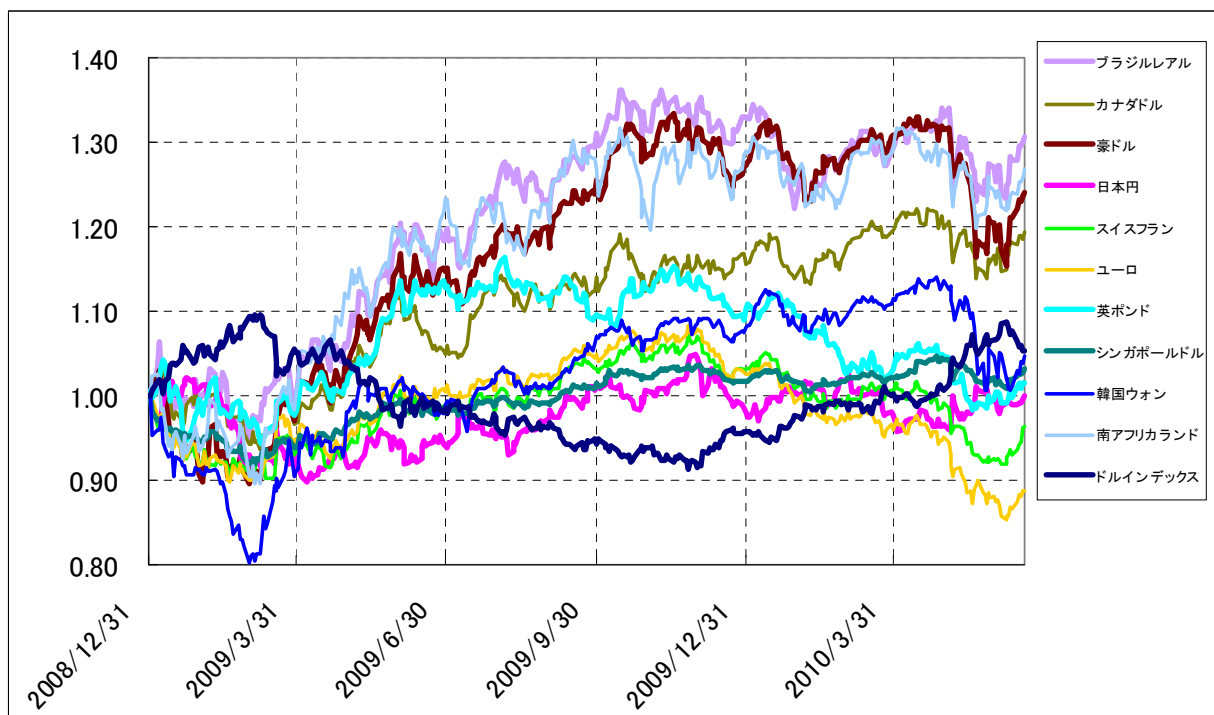
欧州リスクを材料とする売りも一巡となり株式市場はリバウンドが続いた。中国の不動産市場に対して強弱の見方が交錯する中、週末には人民元の柔軟化が発表され、世界経済の安定化に資するとして歓迎する姿勢主流に。

【各国株価インデックスの2008年末からの変化率の推移】

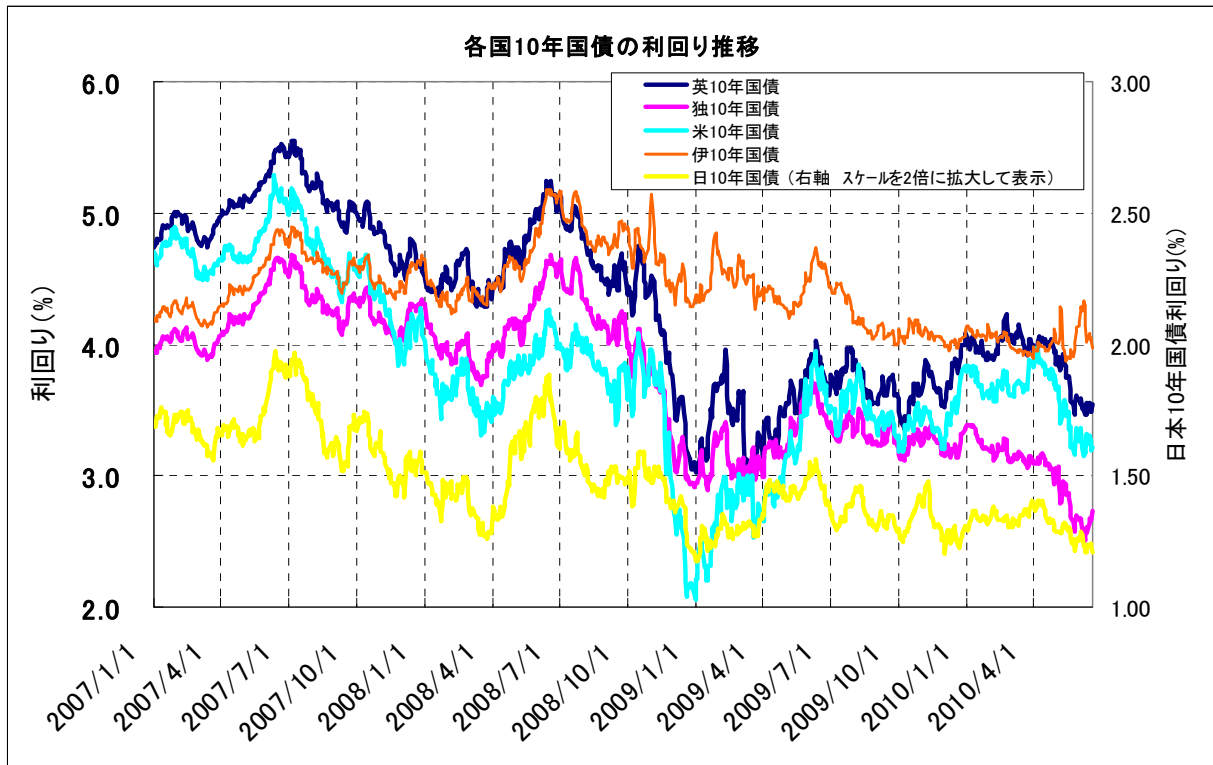


リスク回避姿勢の緩和から、ドル全面安に。週末には中国当局が人民元の柔軟性拡大の容認を公表、ゆるやかな対ドルでの切り上げが再開される見通し。

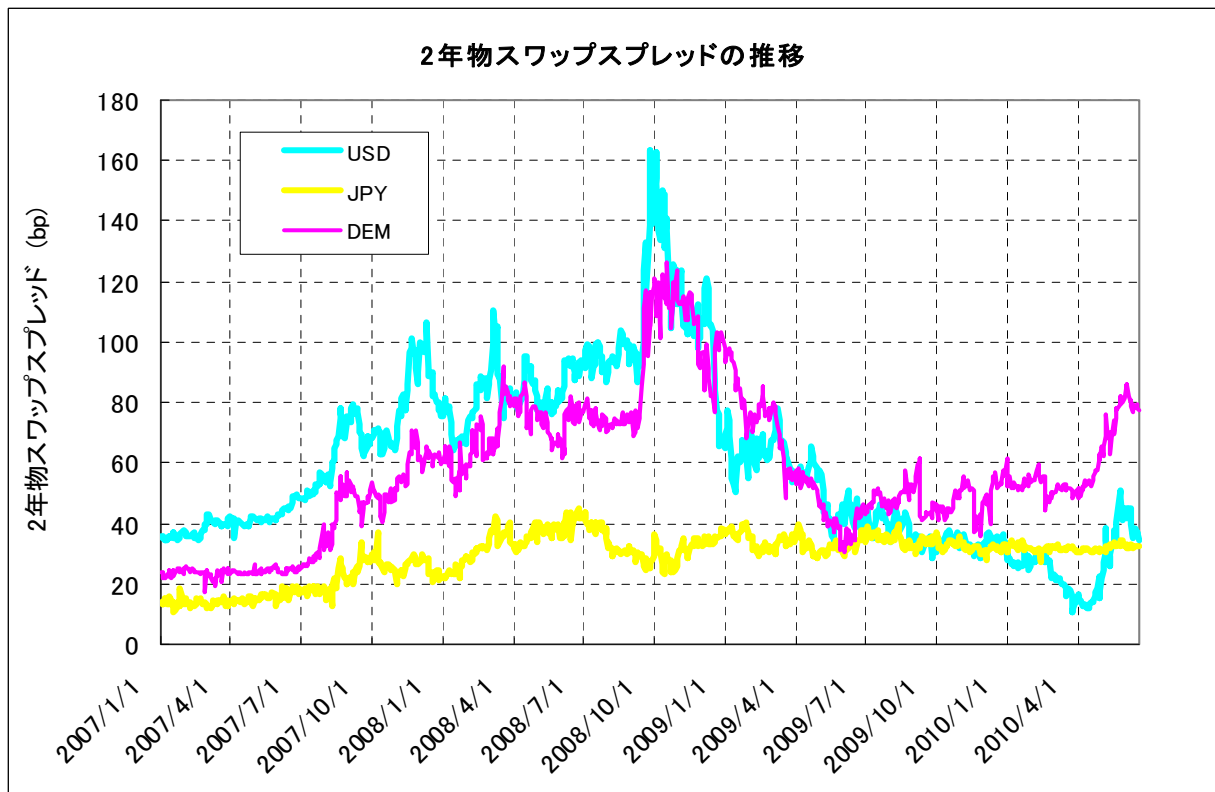
【各国通貨の2008年末からの対ドルでの変化率の推移】



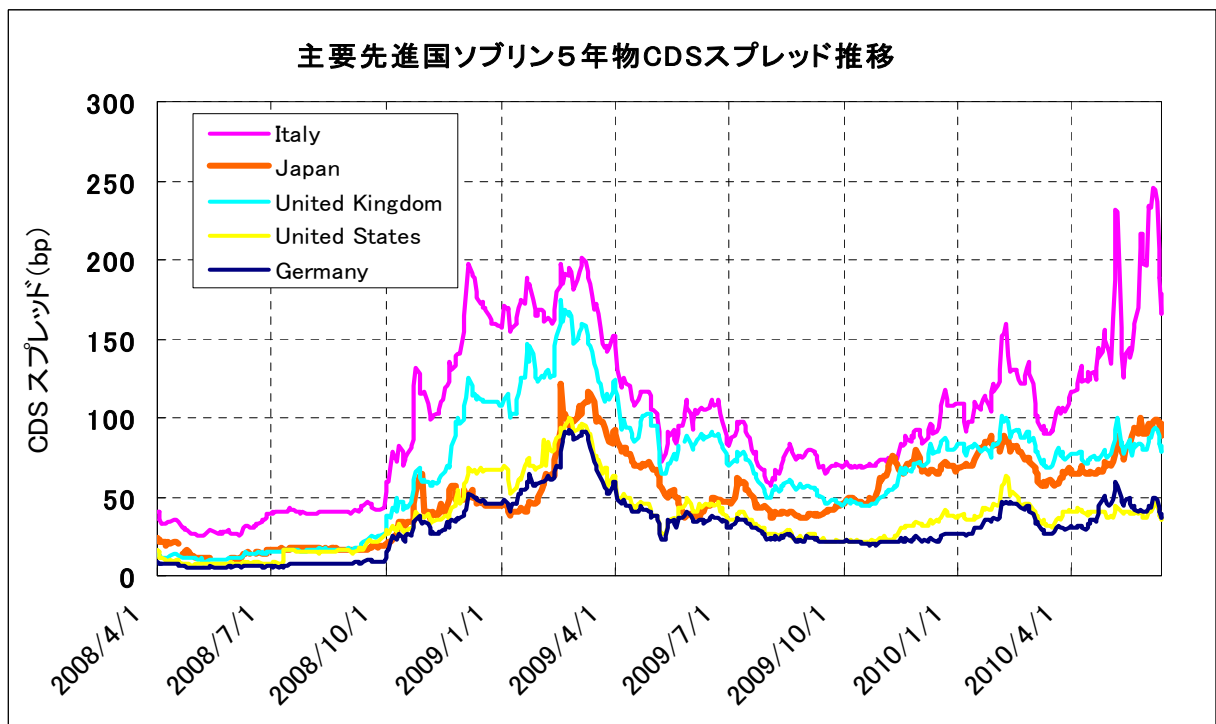
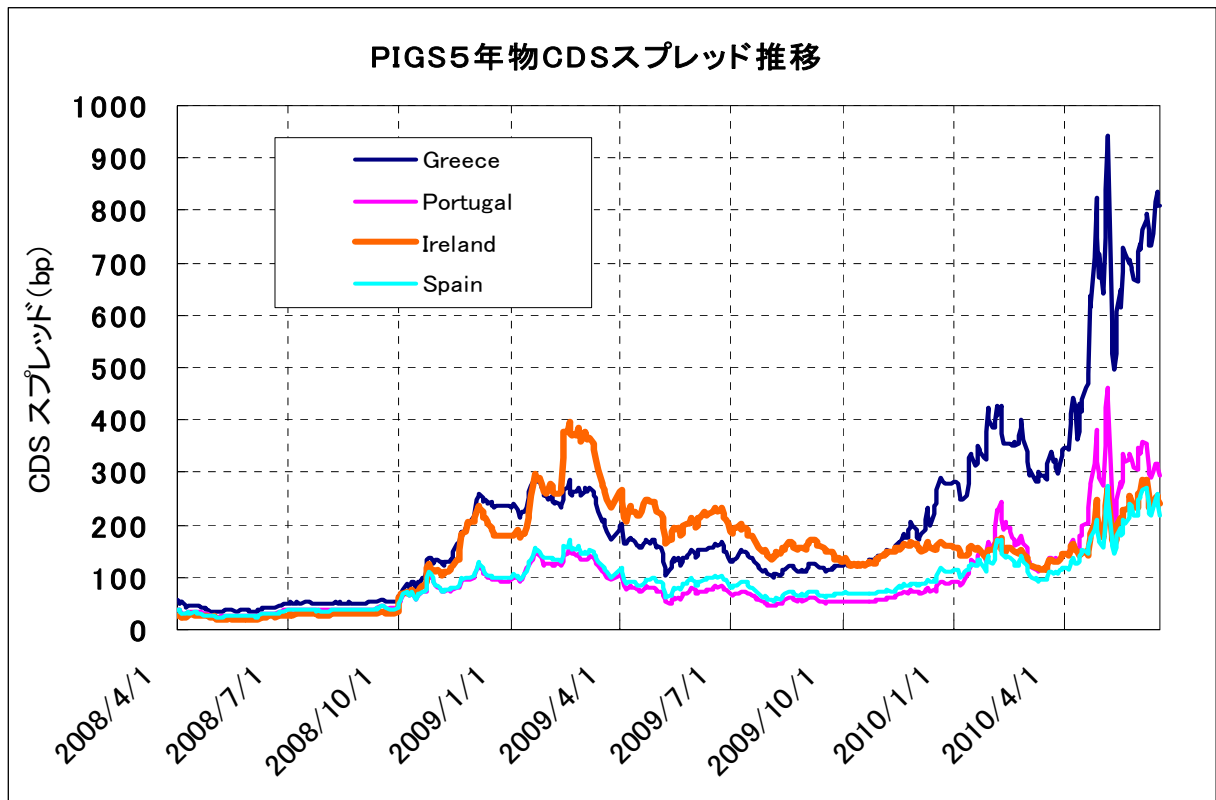
市場のリスク回避姿勢が緩和しつつある中でも、今後の緊縮財政に向けた動きを睨み、主要先進国の国債に対する需要は根強い。



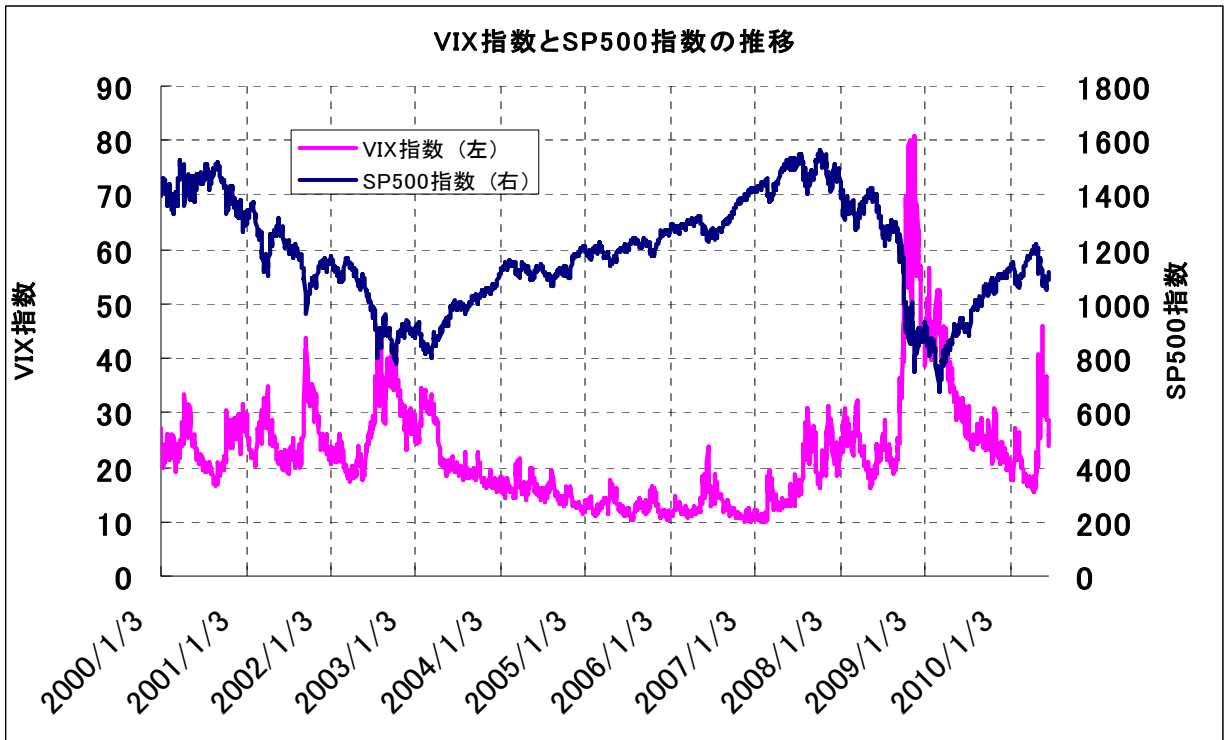
スワップスプレッドの縮小継続。



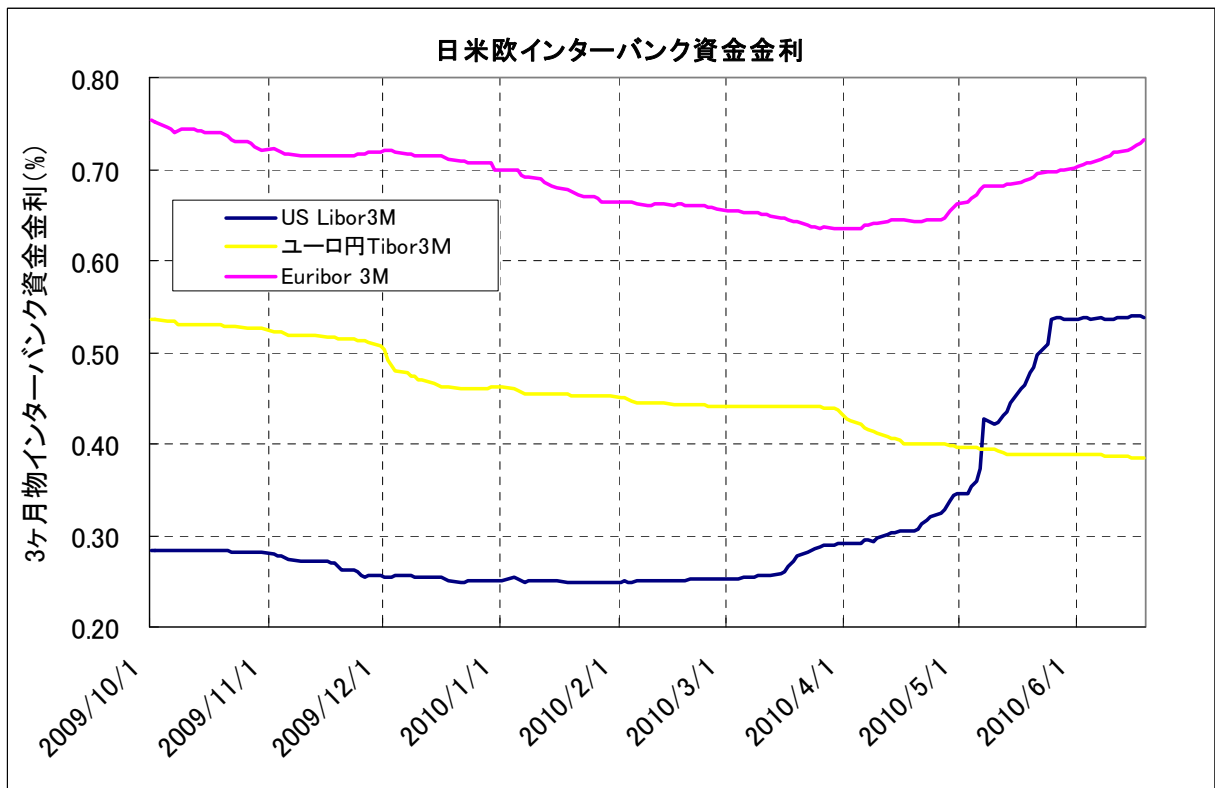
ソブリン CDS スプレッドは格下げを材料にギリシャは拡大しつつもその他は概ね横ばいか縮小方向に。



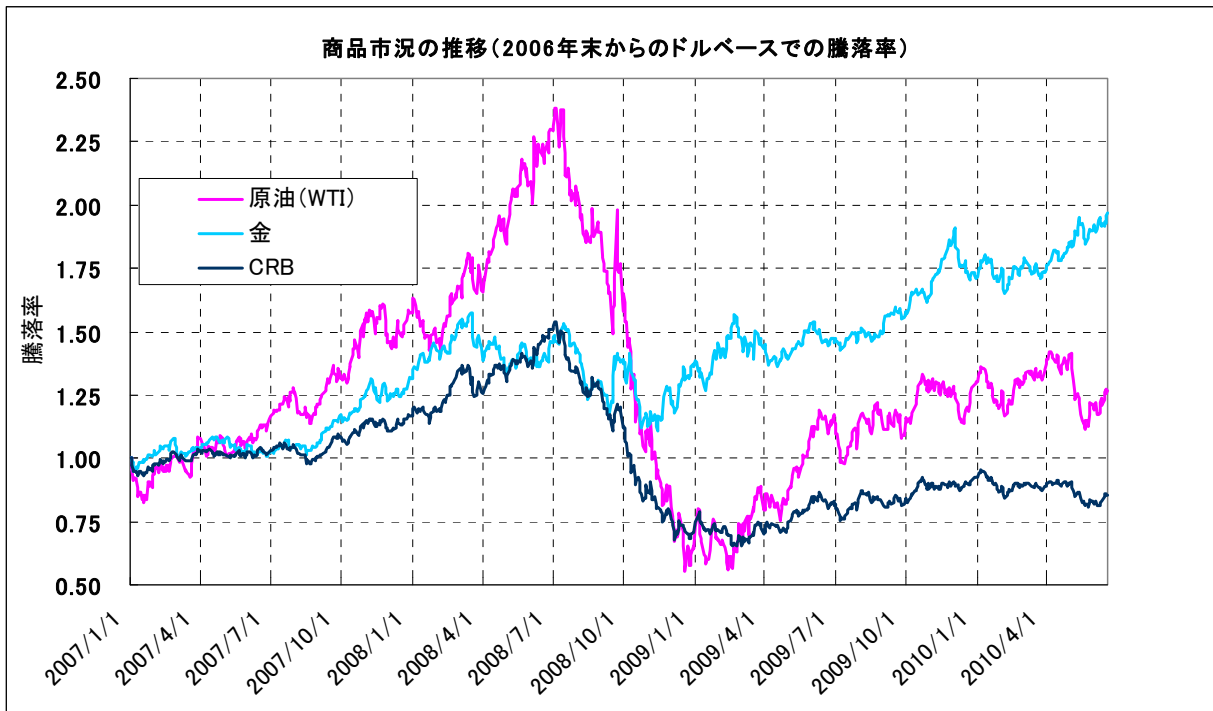
VIX は 23 台に低下。



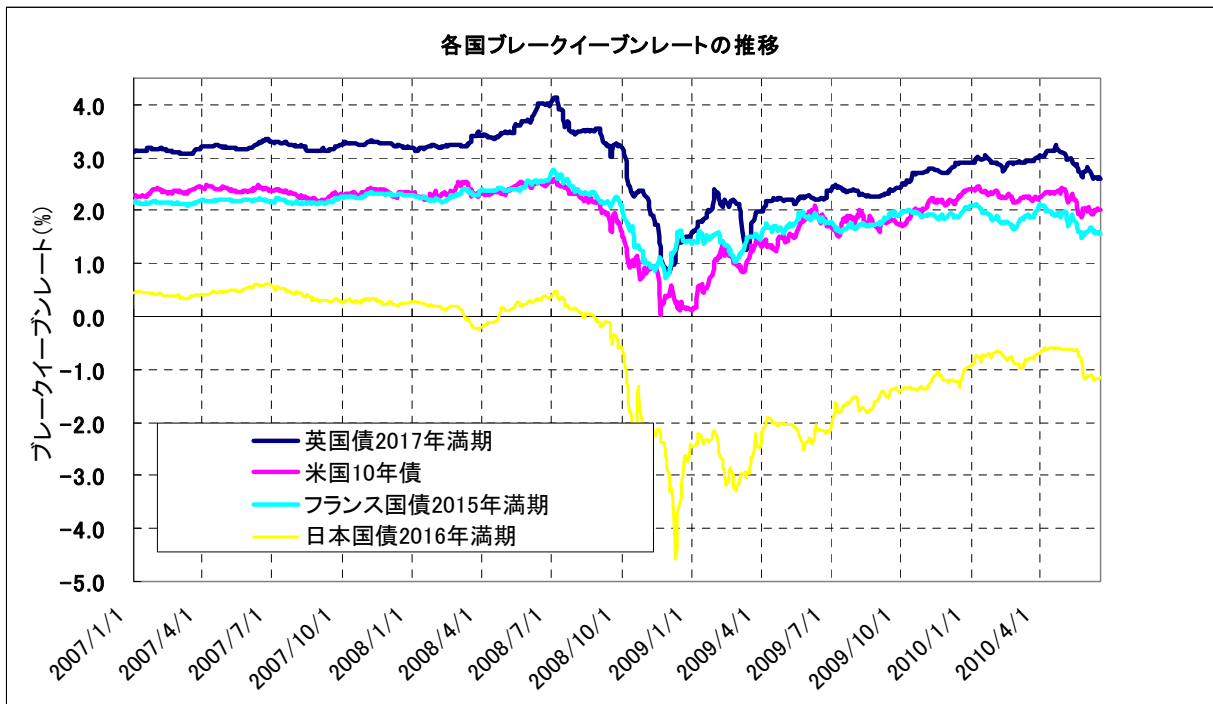
ドル LIBOR は横ばいながら、ユーロ圏の金利は微増傾向が続く。



原油のリバウンド傾向、ゴールドへの資金流入が続く。



ブレイクイーブンレートは小動き。



(末永)